



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	学内でゆっくり休めるカフェ空間を作る : ピア・カフェ企画の概要
Author(s)	中根, 宏樹; 浦家, 奈々; 岡本, 健
Description	6. 学内でゆっくり休めるカフェ空間を作る : ピア・カフェ企画の概要
Relation	北海道大学ピア・サポート活動報告書 (平成22年度版) pp. 91-93
Issue Date	2011-03-31
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/45446
Type	report
File Information	06.pdf



6. 学内でゆっくり休めるカフェ空間を作る

ピア・カフェ企画の概要

6. 学内でゆっくり休めるカフェ空間を作る

ピア・カフェ企画の概要

中根宏樹¹・浦家奈々²・岡本健³

本章では、ピア・サポート室でカフェを行う企画「ピア・カフェ」について、現在たてている企画概要を示す。ピア・サポート活動を進めていく上で、様々な企画をどのように進めていくのか、ということが学生の中では大きな問題となる。現時点でのピア・カフェの企画を記しておくことで、企画立案段階で考えなければならないことを提示するとともに、今後実施した場合に、企画立案とどのような変化が生じてくるかを検討することをねらいとする。

6. 1. ピア・カフェの目的

本企画を行う目的は以下の通りである。

①学生が一人でゆっくりできる空間を提供すること

近年、「便所飯」という言葉が聞かれるようになっている。「便所飯」とは、便所で一人で食事を取るということを意味する。これを大学生が行っているというのである。何故便所で一人で食事を取らなければならないかというと、「友達がいない」と周りに思われるのが嫌だから、であるという。このように過剰に周囲のことを気にかけてしまう現象が生じているというのである。北大でこのような事象が確認されるかどうかは分からないが、その根幹にある「一人でいるところを見られたくない」という想いを持つ学生は少なからずいるように思われる。そうした学生に対して、一人でゆっくりできる空間を提供するためにカフェを提案したい。街中のカフェの店頭をのぞいてみると大学生らしき人が一人で利用し、読書をしたり、学習をしたりしている。カフェであれば、コーヒーを飲む、といういわば大義名分があるため、一人で利用しても、それほど違和感はないため、上記の問題解決に資すると考えられる。また、一人でいるのが当たり前の空

¹ 北海道大学大学院 国際広報メディア・観光学院 観光創造専攻 修士課程

² 北海道大学 農学部 学部生

³ 北海道大学大学院 国際広報メディア・観光学院 観光創造専攻 博士後期課程

間があれば、一人でいることが異常なことではなくなるため、学内に新しい価値観を提供し、安心して一人でゆっくりできる空間を確保できると考えられる。

②ピア・サポート活動の周知を行うこと

平成 23 年度は、ピア・サポート室が新しい場所に移ってから、初の新入生を迎えることになる。学生生活の当初からピア・サポート室のことを周知してもらっておくことで、利用を促進することができると考えられ、本企画はそのことに貢献すると考えられる。現在制作が進んでいる広報ビデオ「苦楽戦隊ピア・レンジャー」の上映や、本活を同時に行うなど、他企画との連携も可能である。

③ピア・サポーターと学生間の直接的な交流を生む

イベント「本活」でも目的として挙げていたが、ピア・サポーターは常に新生との直接的なつながりを持っておくべきであるため、こうした機会は頻繁にあることが望ましいだろう。特に、本年は大きく入試という、これまで在学学生は誰も経験したことが無い入試形式によって選抜された新生である。そのため、コーヒーマシンの提供を介して、新生とコミュニケーションを取り、学生の生の声を収集する必要がある。また、平成 23 年度より、新たに 3 名のピア・サポーターを迎えた。その新規ピア・サポーターの訓練の場としての機能も期待できる。

④学内資源の紹介イベントや学生の表現の場の提供

ピア・サポーターはインテーカー業務が主たる業務の一つであるが、学内資源のパンフレット等資料をピア室に蓄積し、新生に対して学内資源を紹介するイベントをカフェと同時開催できる。また、2011 年 1 月 17 日かえあ 1 月 28 日まで開室日に行われた「二次元芸術研究会」(写真展)のように、音楽や絵画、写真等、学生の表現の場を創造することもできる。このように、カフェという場は、様々な活動のプラットフォームとなることができる。

6. 2. 実施期間と時期

期間限定のイベントとして1～2ヶ月間、実験的に実施する。時期については、5月、6月ごろの北大祭が行われる期間前後に実施する予定である。恒常的なサービスにする可能性についても検討したが、カフェを恒常的に運用する設備や人的資源を考慮した場合、まずはテストケースとして期間限定で実施するのが現実的であると考えられたため、今回は期間を限定して行う。テストケースであるため、実施の際には各種調査を行い、実施した際の成果や課題などを蓄積する必要がある。

6. 3. 活動内容

ピア・サポート室のオープンスペースを活用し、ピア・サポーターがコーヒーを提供する。コーヒーは無料で提供し、オーダーを受ける際やコーヒーを渡す際にコミュニケーションをはかる。ピア・サポーターと来室学生はもちろん、来室学生同士のコミュニケーションを創出するような仕掛けも提供していければと考えている。

6. 4. 今後の課題

ピア・カフェを実行する形態としては、今回はテストケースとして、一定期間のイベントとして実施するが、継続する可能性などは実施していく中でさらなる議論が必要である。また、今回は無料でコーヒーの提供を行うが、継続性などを考える上で有償化なども視野に入れている。また、学内にはすでにカフェがいくつか存在し、それらとの連携可能性や、差別化などについても考える必要がある。これら課題については、ピア・カフェを計画、実施していく中で議論していく予定である。

